

うしく里山の会 広報誌

# さとやま

(No. 67 2008年9月号)

## NPO法人 うしく里山の会

事務局 〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1  
(牛久自然観察の森内)

TEL 029-874-6600 FAX 029-874-6812

E-mail [u\\_satoyama@infoseek.jp](mailto:u_satoyama@infoseek.jp)

HP <http://u-satoyama.web.infoseek.co.jp/>

## 牛久市にある

## 外来の巨木・古木・希少木

巨木リサーチ事業 渡辺 泰



岡田小学校の樹木園のメタセコイア 右側 高さ 24m 幹周 276cm

左:全景 右:幹下部と左奥の栽植説明碑

平成二十年度の巨木リサーチ事業の活動の一つは、個人の敷地や校庭などにある巨木・古木・希少木の調査です。予備調査を基に五十六本の調査木を選びましたが、外来樹種が多く注目されます。巨木のヒマラヤスギ、古木のメタセコイア・モクレン、希少木のダイオウマツ・チャンチン・テグマツ・ニッケイ・ハンカチノキ・モミジバススカケノキ・ユウカリノキ、前年度のイチヨウ・シダレヤナギ・ハクモクレンを加えると十三種に達します。

今年の調査木に外来樹種が多いのは、樹齢数十年と推定されるものの割合が高いことから、第二次世界大戦後（千九百四十五年以後）、海外の新しい文物を積極的に取り入れようとした当時の社会的風潮が栽植樹の導入にも及んでいたものと推察されます。その一例として、「戦後、主人がメタセコイアの苗を東京で購入し、混雑していた電車で持ち帰った。」という話を伺いました。またメタセコイアの栽植を巡る具体例として、岡田小学校々庭の下記の碑文があります。

「天皇皇后両陛下は、皇太子殿下時代の昭和30年秋、国際親善のためご訪米の節、メタセコイアをお持ち帰りになり、東宮御所に栽植されました。…宮内庁東宮職に奉職されていた当校卒業生滝本ふみ氏…に賜った苗木を同氏が…本校に寄贈したものです。…牛久市長 池辺 勝幸謹書」

以上のように栽植樹が植え育てられてきた背景には一本毎にエピソードがあり、栽植に係った人々の想いや願いがこもっています。これらの樹木が牛久市民共通の財産として、次世代に引き継がれることを願っています。



うしく里山の会には

個性豊かなプロジェクトが

たくさん活動しています。

先月はどんなことがあったでしょうか？

それでは紹介しましょう！

# プロジェクト 活動報告



## 雑木林応援隊活動報告

原口 隆男

はるか昔、縄文の人々は森（雑木林）から多くの生きる糧となる木の実や草の根を得る事ができ、農耕牧畜の暮らしをするようになった弥生の人々にとつても森は大切な生きるための食料を生み出してくれる母であった。

この森からは、クルミ、クリ、ブナ、カシワ、ナラ、クスギ、フジ、ニレなど、もろもろの実や葉や樹木を求め住材、衣料原料はもちろん、落ち葉も肥料としてきました。そして長い年月を経て私たちにそれぞれ地域により、その地に育って来た物を生かす有用な技術を伝えてくれました。

染めの世界でも例外ではありません。私が知っているだけでもアイヌの厚司、沖縄の芭蕉布、大島の泥染め、八丈島の黄八丈とそれぞれの地域で生まれ、私たちはそこからさらに学び取ることがたくさんあることに気づきます。

「草木染め」についても草木と言いますからどんな草木でもよいのですが、とつてもなんでもよいとは限りません。採取する場所や時季によって、仕上がりの色合いに違いが出てくるのです。その技法をよくマスターすることで美しい色を染める事が出来ます。さて草木染めといつても、草木だけを自然の染料としてきたわけではありません、動物も鉱物も染料の仲間に含まれます。昆虫やそのフンで染

料を作ったり樹液で塗料を作る。石や酸化鉄や銅を砕いて顔料を作ったり、素晴らしい化学の世界でもあります。

私たちの食卓を彩る「梅干し」など、台所にも草木の特性を生かした物がたくさんあります。草木染めとはそれほど私たちの身近な物です。草木染めの多くは主婦達の仕事でした。衣服を染めたり、食卓の彩りにも使われていたのです。「染め」といつ仕事は行き着くところは台所につながってきます。あまり難しく考えずに肩の力を抜いて始めて見ましょう。





## 里山自然観察隊活動報告

田澤 七郎

### 第三回植物観察会に参加して

八月九日(土)、今年度三回目の植物観察会を実施。場所は下根町のジャンボゴルフ場西側の雑木林と牛久自然観察の森コジユケイの林の二カ所。今年五月に観察した場所と同じ所です。

今回は一般参加者はなく、全員、里山自然観察隊メンバーで八名でした。ただ、我々はいずれも青年期を過ぎた年齢であり、この頃の猛暑続きから、この日も暑さが心配されたのですが、幸いなことに当日は高曇りで、ギリギリした日差しは無く風も少しあり、格好な観察日和となりました。防虫剤での対策をしても蚊のお出迎えはありましたが。

朝九時、観察の森駐車場に集合、簡単な打合せの後、車三台に分乗し第一観察地である下根町の雑木林に向かいました。ここは適当に手入れされていて比較的歩きやすく気持ちの良い所でした。これは植物にとっても同じとみえ、アキノタムラソウ、キンミズヒキ、シオデ、サジガクビソウ、ツリガネニンジンなどの野草の他、絶滅が危惧されているイチヤクソウ、キンランも含めて七十種程(草本二十八種・木本四十種)の植物を確認。

既に、牛久地区では絶滅したとされている種類、コヤブタバコ、マムコナと思われる野草も見付かりました。(以上、渡辺泰さんの講義、解説)。この場での観察は約一時間半、午前十一時頃に終了。

その後、第二の観察地である牛久自然観察の森に戻り、渡辺さんの解説を受けながらコジユケイの

林の観察を行いました。ここは観察の森の一部であり、管理が行き届いていて、人工的となり或いは少し自然から離れているのではないかと思っていました。それが間違えだったようです。現に、当日も石神園長自ら刈払機で下草刈りをしていましたが、残すべきものは注意深くきちんと残してありましたが、またこつしなと弱い絶滅危惧種の植物は消えてしまうのだそうです。ここでは十二時半頃までの約一時間の観察で、アオイスミレ、ハエドクソウ、タカトウダイ、ツリガネニンジンなども含めて草本四十三種、木本三十二種の植物を確認し、貴重な森であることが分かりました。

(追記) 今回の観察作業中、一度も蝉の声を聞かなかったような気がするのですが…。



下根町雑木林 08.08.09 白井

次回の活動「植物ガイド」は九月十三日(土)  
観察の森駐車場九時集合  
観察場所は観察の森近くの湿地、水田。  
問合せ先 029-873-6426(平塚)



## 巨木リサーチ事業報告

研修G 飯田雅俊

### 白神山地研修旅行

数日前より頭がサウナの中でボーとしている感じであった。昨日より体が楽に感じられるので参加することにする。十時に床に就くが熱のためか、はやる少年心が寝付けない、二時三〇分に目が覚めてしまつ。四時十分の集合にヘッドライトを点けて家をでる。すでに全員集合していて挨拶をすませ薄明かりの中出発。何の支障もなくおよそ一時間で空港に到着、定刻どおり機中の人となる。

大館能代空港に到着し一路暗門の滝へ、車中で数日来の雨による落石で滝への道が閉鎖されていると聞く。およそ一時間のブナ林散策コースに変更となる。しばらく歩くと幹の太さも同じくらい明るいブナ林、中低木がなく下草まで日が通って整然としており、手入れがとどいてる林といった感じだ。木肌には菌類、藻類による紋様がある。葉に受けた雨は枝をつたって幹に集められて樹幹流となつて根に集められる、黒い縦のラインとなつて雨の流れの跡がわかる。途中に根が大きくえぐられていたりところがある、散策道を作ったためであり、倒れないのは隣の根と絡まって耐えている。ブナの根は浅く単独では風などに弱く生きていけないので林が成立している。樹に一トン、根に五トン、一本のブナに十トン?の水が蓄えられていて森のダムである。散策道でおいしい湧き水を飲むことが出来た。

小型バスに乗換え二十分程走り津軽峠へ、樹齡

およそ四百年、大きい保護のため樹に触れるところまで木道が作られていた。栞を作るため幾度もマザーリーについて眺めていたのではじめての感じがせず感動を覚えなかったが、参加者はどうであったか。

今日の見学では専門のガイドが植物・白神山地について説明していただいた、ガイドブックやインターネットで目をおして知ることはできるが、耳から大気からの生きた知識に比べることはできない。昨年も富士山でそうであった。白神山地には核心区と緩衝区があり、今いるところは緩衝区域を一步は入っただけ、核心区は昔のマタギが歩いた道くらいであり、現地ガイドといっしょでなければ入ることは難しいと聞いた。三時間ほどいただけで白神山地を知ったつもりにならないよう注意。

宿のある弘前に向かいアップルロードを走る、名のとおり両側にはりんごの木が、プラムくらいの大さの実をつけている。温泉、夕食そして交流、話はずきない。十時過ぎても終わらないので中締めをするが、床に就いたのは十一時を過ぎていた。

二日目は市内見学の後、世界遺産の区域に入っていないが白神山地のスポットになっている十二湖へ昔、地震でせき止められて出来たとある。三分ほどの散策、水彩の青を溶いたような透明な青湖、昨日見たときと同じ明るいブナ林。何万年前なら北日本のどこにでも見ることができ海岸近くにも森があった。薪炭木として利用され深すぎた山だけが残されたといふ。

連なる波が岩を繰り返し包んでいた明るい日本海を一区間だけ車窓より眺めることができた。いつかは乗りたい冬の五能線。

秋田空港へ着き往路より少し大きいボーイングで羽田。そして高速を走り牛久市役所。七月八・九日の一泊二日、遠いと思っていたが飛行機を利用したツアーに参加することにより時間とお金を節約することができ費用対効果から考えると十分満足できた。

白神山地の清涼な空気を満喫して、二十時五〇分に参加者十二名全員元気で実り多い研修旅行を終えた。



ブナ林散策路ガイドの説明を聞きながら 08.7.8 宮澤



世界遺産にナイフで名前が、参加者と同名。この地は初めてのこと。 08.7.8 増田



### アヤマ受託事業活動報告

坂 弘毅

アヤマ園受託開始以来、最大の課題、株分けがはじまった。三年に一度の難作業「株分け」は圃場からアヤメを掘り起こし、圃場を改めて耕起する。

三年間アヤメを育ててくれた圃場はまるで戦場と化す。耕耘機によって畝がつぶされ、攪拌された泥からは、へど口の匂いが立ちこめる。耕耘機によって圃場の土中に空気を入れ、太陽に当てて滅菌する。雑草もきれいに鋤き込まれた圃場は手入れに行き届いた畑のようだ。

次の作業「畝づくり」が待っている。花萼蒲は湿った環境を好むが、四六時中冠水は嫌う。そこで、牛久観光アヤマ園のオリジナル、即ち里山流の圃場をつくってきた。畝をつくり、畝の上に花萼蒲を植え、溝には水が常に流れているという、水辺の美しい景観である。この景観は素晴らしいと各方面から賞賛の声が上がっている。畝づくりは体力との勝負。畝のヤマが崩れないよう土を固めながら溝を丁寧に掘っていく。次に畝の上面を平



アヤマ園の株分けと植え付け作業 08.07.24 坂

らに整地し、「ブロックが完成すると通水である。高低差があれば水は先に進まない。掘ったばかりの溝を農業用水がなめるように進む。流れが止まれば、溝を掘り直し、しばらくして全域に水が入る。このときの景観は、長野県穂高町の「ワサビ田」を想起させる。

株分け作業の作業分担は、「掘り起こし」「株の運搬」「株分け」「耕耘機」「畝づくり」「整地」「植え付け」である。

今年の株分けは七月初旬に開始、五〇〇〇㎡・一万株の花苜蓿の半分が完了した。農業用水は今月いっぱい停止。来月からは牛久沼からエンジンポンプによって揚水し作業を継続させる。



じゃがいもプロジェクト活動報告  
飯田 雅俊

今日は収穫日

七月十九日快晴で暑くなりそう。朝突然用事が入る、任務があり欠席はできない。用事が終わる家についたのが十一時、今から行ったのでは昼飯を食べに来たと思われる、しかし心配で昨日作成した種別収穫量表を持って娘と二人で畑へ

到着すると掘り起こしは終わり昼食中であった。牛肉入り汁物と蒸し焼き、炭小屋まわりにたくさん家族がワイワイと食べている。

幸いにも、「待ってました」といわれ早速計量を始める。読み上げた値を娘が記録紙に記入。親子連携で計量完了。男爵、メークイン、キタアカリ、アンデスレッド合計一五〇キログラム。種芋から生産量を比較すると生産量は低いとのこと、私たちは農業従事者ではないからと言いつけしながら、種類によっても収穫量が違う、日当たりの良し悪し、あるいは肥料の量なのかと考えを巡らした。確かなことは農家にくらべて手をかけていない、雑草もたくさん生えていた、だけではないが。

継続参加者が五家族を含め二〇名、収穫日だけの参加者が十家族含め二八名、会員六名、合計五四名（内子供二名）の大人数となった。

三月よりはじめたジャガイモプロジェクト、泥だらけでバツヤカエルをつかまえ、大きな声で驚き、

泣いたり、追いかけてこをしたり、木陰で昼寝と、親子にとって皆様にとっても大切な時間であったと願いつつ、一家族三キログラムほどのジャガイモを持ち帰っていただき、無事終了することができた。



親子で収穫 08.07.19

残暑お見舞い申し上げます



砂の順  
で地面  
にまき、  
平らに  
均し踏  
み固め  
ました。  
これで  
一雨  
降れば  
地固  
まり、  
滑りや  
すいぬ



園路の補修 08.08.08 渡邊

森はみんなの宝物！

会員の皆さんのパワーを森へ！

『観察の森 もっといい場所増やし隊』第三回

牛久自然観察の森内の野外施設の改修作業やベンチ作りなどのボランティア活動を月一回の頻度で行う「観察の森 もっといい場所増やし隊」第三回の活動は、カッパの沼手前のおずまや付近の園路の補修を行いました。参加者は、大学生インターン二名を含め七名でした。道路補修材の砂や瓦礫合計十四袋を運び、五、六年分の土をはがし取り、瓦礫、



牛久自然観察の森報告

斎藤 孝

かるみはなくなりません。午後の暑い中での作業でしたが、参加者皆さんの連携プレーの良さのおかげで約一時間半で仕上がりました。次回は、観察舎廻りの手入れです。井戸ポンプ用の屋根作りも行います。皆さんの参加をお待ちしています。

【活動日】九月十日（水）

午後二時～三時三〇分（雨天中止）

持ち物）軍手、タオル、長靴、帽子、飲み物

参加希望の方は、前日までにお電話にてお知らせ下さい。

牛久自然観察の森029-874-6600（担当/渡邊）



森林総合研究所受託事業報告

坂 弘毅

七月一八日からスタートした、森林総合研究所の展示ルーム説明員受託事業はいよいよ最終段階に入りました。毎年行われているつくば市教育委員会主催の「つくばちびっ子博士」に協賛したつくば市の研究所が夏休み期間中公開するもので、森林総合研究所はうしく里山の会との連携によって夏休み一杯「もりの展示ルーム」を公開しています。里山の会の会員は毎日二名ずつ説明員として常駐し、ちびっ子への説明を行っています。

今年の来所者は例年以上に多く、一日平均七十名ほどが森林総合研究所の研究成果や昆虫、キノコ、絶滅危惧種の鳥や動物、木材、種子の勉強をしてくれています。



もりの展示ルーム  
木材の浮沈テスト  
08.08.20 坂



坂 弘毅

八月二十四日、下根の運動公園で「うしくみらい エコフェスタ」が開催されました。地球環境を意識した初めてのイベントで、来場者に、創造し、見て、感じて、活動し、学ぶことを基本に企画された楽しいイベントになりました。

里山の会も参加し、「美しい牛久の里山を未来へ」というテーマでブースを構成しました。里山の会の設立趣旨にもありますように、「自然と人が共生した美しい環境を保全し・・・」を基本に、地球温暖化に貢献するためには健康な森林（もり）づくりを推進させCO2を吸収させることが重要です。



うしく里山の会ブース  
下根運動公園アリーナ  
08.08.24 坂

識して企画運  
営することも  
重要なテーマ  
ではないかと  
考えます。

ブースの構成は、エコアップを通じて健康な森林づくりの経過、今後の展開、雑木林応援隊の民有林の保全についての経過と実績、そこから得た材料でつる籠や草木染めの展示。観察の森は間伐材や木々の葉っぱを利用した「わくわくランド」丸太タワーや葉っぱの釣りなどは大変好評で、終了間際まで子ども達を釘付けにしました。  
牛久市は九月に「牛久市消費生活展」通称「環境フェスタ」が開催されますが、参加団体としては今後この二つのイベントは同時開催としていただき参加団体の負担（CO2の削減にもつながる筈）を軽減すること、更には開催する時期の吟味が大変重要です。今回は真夏と言いつつももあり、あの大きな体育館に冷房が入っていることでした。環境を標榜するイベントであれば全ての場面で、エコを意識して企画運営することも重要なテーマではないかと考えます。

今月の古木・希少木  
No.17 オニグルミ



果実 = 黄緑色で細毛に覆われる。  
07.6.27 渡辺



でやや小さく扁平な形をしており、二つを並べるとその命名の妙を実感できます。  
(羽賀正雄)

理由が頷けます。  
牛久市内のオニグルミについては、自生と思われるのは猪子町と神谷の水路畔に見られるようです。市街地では福田町のS氏宅の正門奥に大きく枝を広げています。S氏の先代が出身地長野から移植されたもので、幹周りは約2mあり、今なお年輪を刻み続けています。オニグルミの変種にヒメグルミがあります。オニとヒメ：オニの由来は果実(堅果=核)の内部の凹凸が醜い表面も同様)ので鬼の面に例えたと言われており、ヒメの堅果は滑らかなでやや小さく扁平な形をしており、二つを並べるとその命名の妙を実感できます。  
(羽賀正雄)

クルミ科クルミ属の落葉高木で、サハリン、北海道から九州まで分布し、日本はその中心です。雌雄同株、葉は長さ四〇〜六〇cmの羽状複葉、開花は五月頃、雄花は長さ一〇〜二〇cmほどで穂状に垂れ下がり、雌花は新枝の先に赤く直立しています。特徴あるのは果実で、中の種子は脂肪分に富み味覚・栄養ともに抜群です。ネズミヤリスが堅い実をかじる理由が頷けます。

八月度運営委員会からのお知らせ

「里山の秋祭り」開催決定

・里山の秋を楽しもう・・・公開行事  
十月十三日(月・体育の日)

観察の森全域にて

秋の里山を歩こう

雑木林のストロライフ

みんなで元気な森林(もり)づくり

里山の朝市

以上、概要ですが今後実行委員会を開いて詳細のつめを行っていきます。

牛久市消費生活展(環境フェスタ)参加の件  
九月十三日に中央生涯学習センターで開催される環境フェスタに今年も参加いたします。  
参加予定のプロジェクトは準備の方よろしくお願いいたします。詳しくはプロジェクト責任者に追ってお知らせいたします。



## 9月の里山カレンダー

\* 活動日は都合により変更になる場合がありますので、最新情報はホームページでご確認ください。

| 日                                | 月                                  | 火   | 水        | 木                           | 金  | 土   |
|----------------------------------|------------------------------------|---|----------|-----------------------------|----|---|
|                                  | 1 (休園日)<br>アヤマ園(受)<br>7:00 アヤマ園P   | 2<br>雑木林応援隊<br>9:30 ムジナ                   | 3        | 4<br>アヤマ園(受)<br>7:00 アヤマ園P  | 5  | 6   |
| 7<br>巨木リサーチ<br>(受)<br>8:30 市役所玄関 | 8 (休園日)<br>アヤマ園(受)<br>7:00 アヤマ園P   | 9<br>雑木林応援隊<br>(畑) 9:30 畑                 | 10       | 11<br>アヤマ園(受)<br>7:00 アヤマ園P | 12 | 13<br>里山自然観察隊<br>9:00 森P<br>市環境フェスタ<br>市中央生涯学習C<br>10:00~<br>会報原稿切り |
| 14<br>雑木林応援隊<br>9:00 ムジナ         | 15 (敬老の日)<br>アヤマ園(受)<br>7:00 アヤマ園P | 16 (休園日)<br>雑木林応援隊<br>(畑) 9:30 畑          | 17 (休園日) | 18<br>アヤマ園(受)<br>7:00 アヤマ園P | 19 | 20<br>そば 9:00 畑<br>じゃがいも 9:00 畑                                     |
| 21<br>運営委員会<br>9:00NC            | 22 (休園日)<br>アヤマ園(受)<br>7:00 アヤマ園P  | 23(秋分の日)<br>雑木林応援隊<br>(畑) 9:30 畑          | 24 (休園日) | 25<br>アヤマ園(受)<br>7:00 アヤマ園P | 26 | 27<br>巨木リサーチ(受)<br>8:30 市役所玄関                                       |
| 28<br>雑木林応援隊<br>9:00 炭小屋         | 29 (休園日)<br>アヤマ園(受)<br>7:00 アヤマ園P  | 30<br>雑木林応援隊<br>(畑) 9:30 畑<br>会報発送 1:00NC |          |                             |    |   |

**凡例** 森:観察の森 NC:ネイチャーセンター P:駐車場 炭小屋:観察の森梅林奥の炭小屋 畑:観察の森梅林奥の畑  
コジュケイ:観察の森コジュケイの林 観察舎畑:観察の森観察舎前の畑 ムジナ:結東町の雑木林 市役所:市役所本庁舎  
アヤマ園:三日月橋観光アヤマ園 (受):受託事業 休園日:観察の森休園日

## 編集後記

先日、車の中でラジオを聴いていたら、子供電話相談でこんな質問がありました。「動物はなぜ鳴くのですか」。回答は「人間以外は言葉が話せないため、お互いに鳴き声で情報を伝えているんだよ」。しかし、その後に「ただ、動物たちは人間みたいに、過去のことや、これからのことを伝えることはできなくて、雛が親鳥に餌をねだることや外敵がきて危険が迫ったこと等、今のことしか伝えられないんだ」。聞いていてなるほどと改めて納得しました。

人間は「私たちが若いころは谷津田にホタルが飛んでいて、メダカやタナゴ、赤ガエルがたくさんいたんだ!」。「きのこや山菜もいっぱい食べたよね!」。

人間が破壊している環境を、森の動物たちや小川の生き物たちは、荒れた里山、汚れた水に何も話すことや何も解決することができません。私たちが知らないところで嘆き、悲しみを語り合っているのかもしれないですね。

考えさせられるラジオの回答でもありました。

八月も後半に入り、森にはヒグラシも鳴いています。三・四日雷雨が激しく涼しい日が続きました。

二十四節気の一つで八月七日は「立秋」、二十三日は処暑(太陽の黄経が一五〇度の時で、暑さが止み新涼が近い日)です。しかし例年ですと九月初旬までは残暑が続きます。まだまだ暑さ対策油断しないで下さい。

(佐藤輝雄 記)

## 広報委員会からのお知らせ

次号10月号の印刷発送は9月30日(火)午後1時からです。お手伝いいただける方はネイチャーセンターまでお越しください。よろしくお願いたします。